平成 22 年度 第 2 回企画展

# みやしろの動物たち
## ～けもの・鳥・昆虫～

**平成 22 年 7 月 17 日（土）～10 月 24 日（日）**

共催：埼玉県立自然の博物館

**期間中の休館日**

**7 月 20・26 日、8 月 2・9・16・23・30 日**

**9 月 6・13・21・24・27～30 日**

**10 月 1・4・12・18 日**

宮代町郷土資料館

埼玉県南埼玉郡宮代町字西原 289 番地

TEL 0480－34－8882　FAX 0480－32－5601

# 開催にあたって

宮代町は、大宮台地の東北部にあたり、台地とその周囲に広がる低地から成り立っています。また、古利根川沿いには、自然堤防が形成されています。こうした地形のなか、古くから連綿と人々が暮らしてきました。今日、宮代町は 3 つの駅を中心に市街地が形成され都市化が進む一方、田や畑、林、屋敷林といった古くから続く景観や豊かな自然が残されています。このような環境のなかに、さまざまな動物たちが生息しています。

今回の展示は、「みやしろの動物たち〜けもの・鳥・昆虫〜」と題し、宮代町郷土資料館、埼玉県立自然の博物館との共催により、宮代町に生息する動物たちについて、けもの、鳥、昆虫のコーナーに分けて開催いたします。普段何気なく目にするもの、あるいはなかなか近くで目にすることが出来ないものなど、色々な動物たちを紹介したいと思います。

この展示を通じて、宮代町に生息する多くの動物たちを知っていただくと共に、動物たちに目を向け、身近な自然への関心を深めるきっかけとなれば幸いです。

平成 22 年 7 月

宮代町郷土資料館・埼玉県立自然の博物館

凡　例

1. 本書は、平成 22 年 7 月 17 日から平成 22 年 10 月 24 日まで開催される宮代町郷土資料館、埼玉県立自然の博物館共催による企画展「みやしろの動物たち ~ けもの・鳥・昆虫 ~」の展示図録です。
2. 展示の企画については、宮代町郷土資料館 青木秀雄、横内美穂、埼玉県立自然の博物館 碓井徹が担当し、けもの、鳥についての執筆は埼玉県立自然の博物館 碓井徹、昆虫についての執筆は塘久夫氏が行ないました。また展示会場及び図録に使用した写真については、埼玉県立自然の博物館、塘久夫氏、藤田宏之氏、石井克彦氏に提供いただきました。
3. 展示資料は、埼玉県立自然の博物館所蔵、塘久夫氏所蔵の資料を用いました。
4. 本展開催にあたり、下記の方にご協力をいただきました。( 敬称略・順不同 )

   塘久夫、藤田宏之、石井克彦

## 宮代町のけもの

現在の宮代町に生息しているけものには、中型の種ではイヌ科のホンドタヌキやイタチ科のホンドイタチ、小型種ではモグラ科のアズマモグラやヒナコウモリ科のアブラコウモリなどがあげられます。雑木林が減って耕作地が増え、町の中心部が都市化するにしたがって、タヌキやイタチはその生活の場をわずかに残された屋敷林や河川敷などに移していますが、これら昔話にも登場したような身近な動物にかわって、近年では外来動物のアライグマ（アライグマ科）やハクビシン（ジャコウネコ科）がだんだん増えてくる気配があります。

特にアライグマは埼玉県東部でも増え始めていて、宮代町のほかに春日部市や羽生市でも捕獲例があります。漫画の主人公にもなっていて、我が国では比較的“かわいらしい動物”として受け止められているアライグマですが、実は、鋭いツメを持っているうえに狂犬病にかかっている恐れもあり、十分に気をつけて接しなければならない動物です。

アライグマ（石井克彦氏 撮影）

ハクビシン（石井克彦氏 撮影）

## 宮代町の野鳥

平成 10 年に町がおこなった調査では、1 年を通して 50 種を超える野鳥が宮代町から記録されています。ここでは、その中から代表的な種をいくつか紹介します。

［夏鳥］

ツバメのように、日本で繁殖をするために、春から秋にかけて渡ってくる鳥を夏鳥といいます。宮代町で見られる夏鳥には、このほかにアマサギやダイサギ・チュウサギなどのサギ科のコサギを除く数種、荒れ地で営巣するコアジサシ（カモメ科）、アシ原で営巣するヒタキ科のセッカやオオヨシキリなどがいます。

ツバメ

コアジサシ

［冬鳥］

冬季に北国から日本に渡ってくる鳥を冬鳥といいます。比較的よく見られる冬鳥にはツグミ（ヒタキ科）がいます。また、ツグミの仲間のシロハラも宮代町で観察例がありますし、栗色の腹部が美しいジョウビタキ（ヒタキ科）や黄色が鮮やかなアトリ科のマヒワも冬鳥の仲間です。

ツグミ

ジョウビタキ

［留鳥と漂鳥］

１年をとおして同じ場所で生活する鳥を留鳥といいます。また、季節によって国内を北から南、あるいは山地から平野部へと移動したりする野鳥を漂鳥と呼びます。

宮代町でみられる代表的な留鳥はスズメ（ハタオリドリ科）でしょう。近年、国内各地でスズメが激減していることが話題になっていますが、宮代町ではどうでしょうか。

埼玉県の鳥に指定されているシラコバト（ハト科）や日本の国鳥であるニホンキジ（キジ科）も年間を通じて町内で見られる留鳥ですし、おなじみのハシブトガラスやハシボソガラス（共にカラス科）、時には大群をつくるムクドリ（ムクドリ科）も代表的な留鳥です。サギの仲間でも、コサギやアオサギは年間を通して町内で見られる留鳥です。また、沼を生活の場としているカイツブリ（カイツブリ科）やバン（クイナ科）、ゆるやかな流れの川や池沼でみられるカルガモ（カモ科）などの水鳥も留鳥に含まれます。

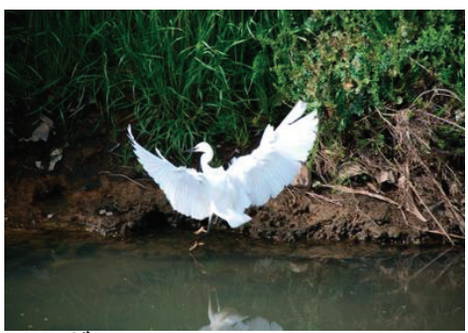
冬に山から下りてきた個体が町内で観察されているミソサザイ（ミソサザイ科）やエナガ（エナガ科）、ヤマガラ（シジュウカラ科）などは漂鳥と言えます。

ハシボソガラス

（塘久夫氏 撮影）

キジ

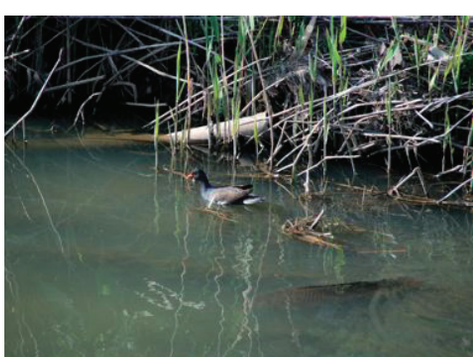
（塘久夫氏 撮影）


コサギ

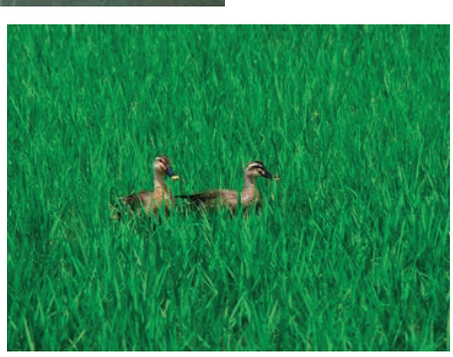
（塘久夫氏 撮影）

アオサギ

（塘久夫氏 撮影）


バン

（塘久夫氏 撮影）


カルガモ

（塘久夫氏 撮影）

# 宮代町のハ虫類や両生類

雑木林や水田がひろがっていた一昔前に比べて、宮代町から急速に姿を消しつつあるのがハ虫類のヘビやトカゲ、両生類のカエルの仲間です。

ハ虫類の仲間でもっとも身近なのはニホンカナヘビ（カナヘビ科）です。体色は淡い茶色で体の表面は少しザラザラした印象です。本種とよく間違えられるのがニホントカゲ（トカゲ科）で、こちらは尾のあたりがやや青紫がかった体色が特徴で、表面もツヤツヤと光沢があります。

また、ニホンヤモリ（ヤモリ科）は家などに住みついており、吸盤のような指先を使って窓や壁をスイスイと登り降りできます。一般的には夜行性で、灯りに集まってきた虫などを捕まえて食べます。

ニホンカナヘビ
（藤田宏之氏 撮影）

ニホントカゲ

ニホンヤモリ

ヘビの仲間では、ヒバカリ（ナミヘビ科）という、水辺を生活場所にしている少し珍しいヘビが町内から記録されているほか、普通種のヤマカガシやシマヘビ（共にナミヘビ科）も生息しているようです。

ヤマカガシ

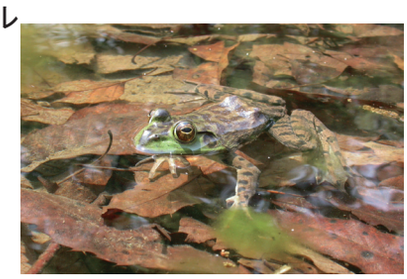
シマヘビ
（藤田宏之氏 撮影）

カエルの仲間では、おなじみのニホンアマガエル（アマガエル科）のほかに、トウキョウダルマガエル（アカガエル科）という長い名前のカエルが町内で見られます。このカエルは、以前は“トノサマガエル”と呼ばれていたこともありますが、学術的にはトノサマガエルは埼玉県には生息していないことが明らかになり、現在では、トノサマガエルとよく似た別の種類であるトウキョウダルマガエルが生息しているとされています。

また、沼などで「ブフォ ブフォ」と牛のような鳴き声を響かせているのは外来種のウシガエル（アカガエル科）です。ウシガエルは、昭和初期に食用としてアメリカから輸入され、それが野外で増えたものです。アメリカザリガニもそのウシガエルのエサとして一緒に輸入され、その後、各地で増殖してしまいました。

ニホンアマガエル
（藤田宏之氏 撮影）

トウキョウダルマガエル
（藤田宏之氏 撮影）



ウシガエル

# 宮代町で見られる昆虫

埼玉県からは、これまでに 1 万種ほどの昆虫が記録されています。昆虫の仲間は、アゲハチョウやカブトムシなどの大型種から 1mm にも満たない微小な種まで、様々な大きさの種が、雑木林や草むら、土の中など多様な環境の中で生活しています。宮代町でも丹念に探せば、きっと数百種類の昆虫を見つけることができるでしょう。

これまでの記録を調べてみると、チョウは 50 種類ちかくが宮代町から記録されていますし、トンボも 15 〜 20 種類くらいはこの町に生息しているようです。

また、地球温暖化の影響で、以前の宮代町では見ることができなかった昆虫類が少しずつ増えてきていることも最近の話題です。例えば、幼虫が庭や公園のパンジーを食い荒らしているツマグロヒョウモンというチョウは、10 年ほど前には埼玉県ではまったく見られないチョウでしたが、今では宮代町でもあちらこちらで見かけるようになりました。

環境写真（トラスト 5 号地の林）

（塘久夫氏 撮影）

ミドリシジミ

（塘久夫氏 撮影）

アサマイチモンジ

（塘久夫氏 撮影）

## 1. 林の虫

林の中は色々な虫の天国です。花は少ないけれど樹液の出ている木を探すとスズメバチやカナブンそしてコムラサキなどの蝶が集まっています。夜になるとスズメガやカブトムシなど夜行性の虫も集まってきます。林の下の地面を探すとシデムシやキマワリなど歩行性の虫も多く見られます。

林の周辺の明るい場所と暗い場所が混じっているような環境も虫が好む場所で、多くの種類の蝶が飛び交います。

宮代町では山崎地区の新しい村の周辺や和戸地区のぐるる宮代周辺に比較的規模の大きい雑木林が残っていて、林の虫たちが見られます。

コムラサキ

（塘久夫氏 撮影）

ビロードスズメ

（塘久夫氏 撮影）

カブトムシ（塘久夫氏 撮影）

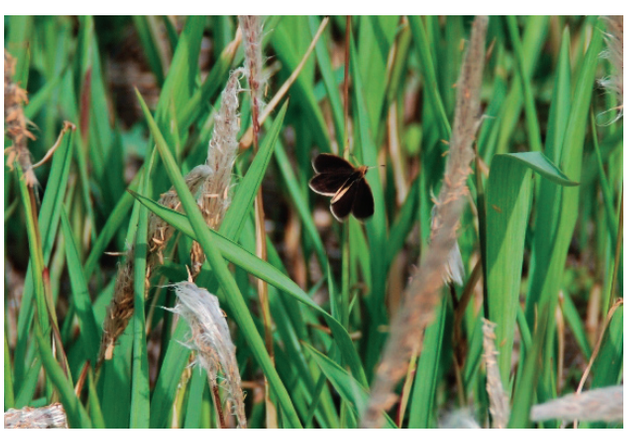
## 2. 草むらの虫

草むらはバッタやキリギリスの天国です。秋になるとたくさんのバッタで賑わいますが、よく探すと春先からもバッタ類の幼虫がたくさん見られ、その幼虫をエサにするカマキリなども見られます。

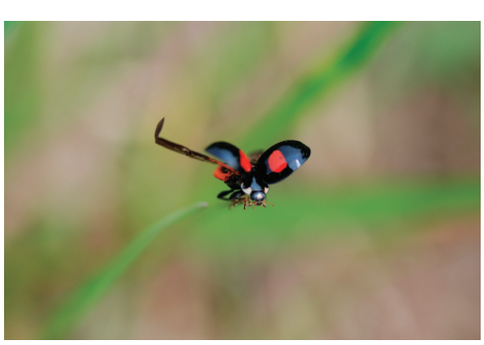
草むらにはさまざまな花も多く咲くので、花に集まる蝶やハナムグリ、ハナバチなどもよく見られます。また草につくアブラムシを求めてテントウムシやカメムシの仲間も多く見られ、虫を探すには一番良い環境です。

宮代町では金原地区のはらっパーク周辺や古利根川、隼人堀川など河川の土手に草原が広がっています。

環境写真（隼人堀土手）（塘久夫氏 撮影）



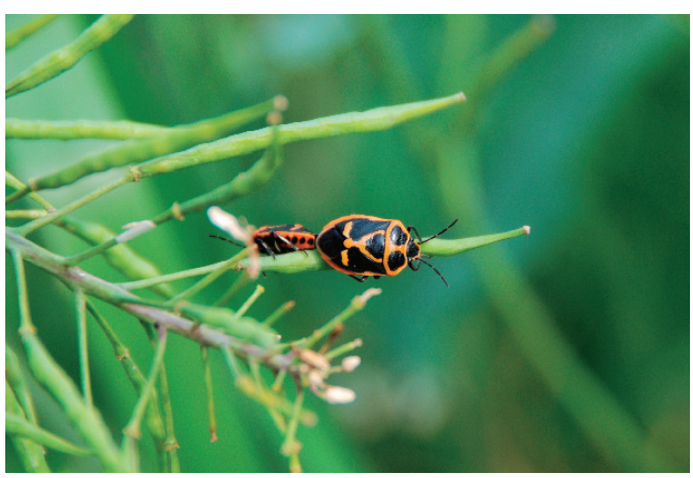
イチモンジセセリ（塘久夫氏 撮影）



ナミテントウ（飛び立ち）（塘久夫氏 撮影）

ハナムグリ（塘久夫氏 撮影）

ブチヒゲカメムシ（塘久夫氏 撮影）



ナガメ（塘久夫氏 撮影）

ショウリョウバッタ（塘久夫氏 撮影）

## 3. 田畑や家の回りで見られる虫

田畑や家の回りでは多くの蝶や蛾が見られますが、蝶や蛾の幼虫が野菜の葉っぱを食べたり、庭木の葉っぱを食べたりするので人から嫌われがちです。しかし人と虫がもっとも身近に触れ合える場所でもあります。蝶や蛾は種類によってきまった種類の葉っぱ（食草）を食べますから、その食草の生える場所には母蝶が卵を産みにやってきます。たとえばキャベツの畑ではモンシロチョウが、豆の畑には秋になるとウラナミシジミが見られます。庭のミカンの葉っぱにはアゲハの幼虫が付いていたり、パセリを丸坊主にする犯人がキアゲハの幼虫だったりします。

宮代町では全域で豊かな自然が残されていますから、庭の花壇や玄関先の植え込みに蝶が好きな草（食草）を植えておけば蝶が卵を産みにやって来ます。

ツマキチョウ（塘久夫氏 撮影）

モンシロチョウ（塘久夫氏 撮影）

環境写真（田畑や住宅地・金原）（塘久夫氏 撮影）

ウラナミシジミ（塘久夫氏 撮影）

キアゲハ（塘久夫氏 撮影）

サトキマダラヒカゲ（塘久夫氏 撮影）

コバネイナゴ（塘久夫氏 撮影）

## 4. 池や川の土手など水辺の虫

水辺はトンボの天国です。幼虫（ヤゴ）が水の中で育つためトンボと水は縁が切れません。成虫は池や川から離れて暮らすこともありますが、最後に卵を産みに水辺に帰って来ます。トンボは水から生まれて水に帰るのです。

宮代町の新しい村の親水池（調整池）にはギンヤンマやオオヤマトンボ、コシアキトンボがたくさん見られます。一方河川の土手も虫の多い場所です。河川の土手には背の低い草はらが発達するため草原の虫と同じような虫がよく見られます。また流れている水を生息の場とするハグロトンボなども河川の近くでよく見られます。

アキアカネ（塘久夫氏 撮影）

環境写真（新しい村調整池）（塘久夫氏 撮影）

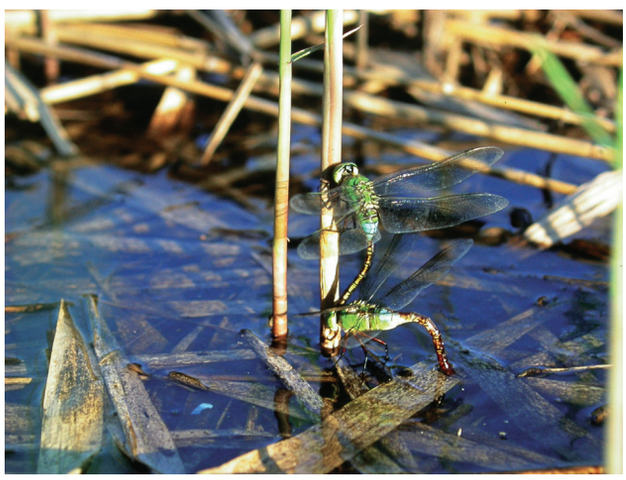
アゲハの幼虫（塘久夫氏 撮影）

ベニシジミ（塘久夫氏 撮影）

モンキチョウ（塘久夫氏 撮影）

ハグロトンボ（埼玉県立自然の博物館 撮影）

オオヤマトンボ（埼玉県立自然の博物館 撮影）



ギンヤンマ（埼玉県立自然の博物館 撮影）

コシアキトンボ（埼玉県立自然の博物館 撮影）

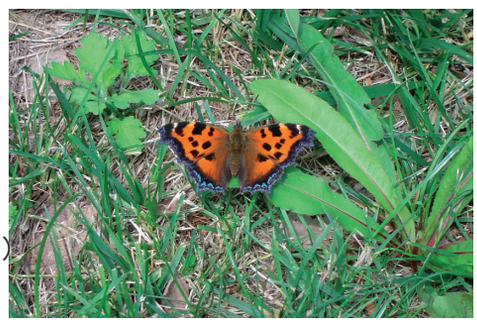
シオカラトンボ（埼玉県立自然の博物館 撮影）

ナミアメンボ（埼玉県立自然の博物館 撮影）

# 変化する自然・変化する蝶

## 姿を消しつつある蝶

オオチャバネセセリ（塘久夫氏 撮影）



ヒオドシチョウ（塘久夫氏 撮影）

アカシジミ（塘久夫氏 撮影）

## ときどき見られる蝶

アサギマダラ（塘久夫氏 撮影）

クロコノマチョウ（塘久夫氏 撮影）

## 最近増えてきた蝶

ナガサキアゲハ（塘久夫氏 撮影）

ツマグロヒョウモン（塘久夫氏 撮影）

季節別：宮代町で見られる蝶

塘久夫氏 作成

| | | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ジャコウアゲハ | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | アオスジアゲハ | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | アゲハ | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | キアゲハ | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | ナガサキアゲハ | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | クロアゲハ | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | カラスアゲハ | | | | | | | | | | | | | 偶産 |
| 8 | ツマキチョウ | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | モンシロチョウ | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | スジグロシロチョウ | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | キチョウ | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | モンキチョウ | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | ウラギンシジミ | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | ゴイシシジミ | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | ムラサキシジミ | | | | | | | | | | | | | |
| 16 | アカシジミ | | | | | | | | | | | | | 絶滅 |
| 17 | ウラナミアカシジミ | | | | | | | | | | | | | |
| 18 | ミズイロオナガシジミ | | | | | | | | | | | | | |
| 19 | ミドリシジミ | | | | | | | | | | | | | |
| 20 | ベニシジミ | | | | | | | | | | | | | |
| 21 | ヤマトシジミ | | | | | | | | | | | | | |
| 22 | ツバメシジミ | | | | | | | | | | | | | |
| 23 | ルリシジミ | | | | | | | | | | | | | |
| 24 | ウラナミシジミ | | | | | | | | | | | | | |
| 25 | ヒメアカタテハ | | | | | | | | | | | | | |
| 26 | アカタテハ | | | | | | | | | | | | | |
| 27 | キタテハ | | | | | | | | | | | | | |
| 28 | ヒオドシチョウ | | | | | | | | | | | | | 絶滅 |
| 29 | ルリタテハ | | | | | | | | | | | | | |
| 30 | ミドリヒョウモン | | | | | | | | | | | | | 偶産 |
| 31 | ツマグロヒョウモン | | | | | | | | | | | | | |
| 32 | コミスジ | | | | | | | | | | | | | |
| 33 | イチモンジチョウ | | | | | | | | | | | | | |
| 34 | アサマイチモンジ | | | | | | | | | | | | | |
| 35 | ゴマダラチョウ | | | | | | | | | | | | | |
| 36 | コムラサキ | | | | | | | | | | | | | |
| 37 | ヒメジャノメ | | | | | | | | | | | | | |
| 38 | クロコノマチョウ | | | | | | | | | | | | | 偶産 |
| 39 | ヒカゲチョウ | | | | | | | | | | | | | |
| 40 | サトキマダラヒカゲ | | | | | | | | | | | | | |
| 41 | アサギマダラ | | | | | | | | | | | | | 偶産 |
| 42 | ダイミョウセセリ | | | | | | | | | | | | | |
| 43 | ギンイチモンジセセリ | | | | | | | | | | | | | |
| 44 | コチャバネセセリ | | | | | | | | | | | | | |
| 45 | キマダラセセリ | | | | | | | | | | | | | |
| 46 | オオチャバネセセリ | | | | | | | | | | | | | |
| 47 | ミヤマチャバネセセリ | | | | | | | | | | | | | |
| 48 | チャバネセセリ | | | | | | | | | | | | | |
| 49 | イチモンジセセリ | | | | | | | | | | | | | |

：　多い　　普通　　少ない